

# Puns を用いた協働学習における新出語彙・イディオムの理解の研究

佐藤駿

## はじめに

近年、協働学習 (Collaborative Learning) に関する研究の発展がめざましく、日本国内の英語教育においても、学習者の意欲の変化に肯定的な効果があることなどがわかっている。一方で、第二言語教育における協働学習の大きな利点である言語項目の習得についての研究が少なく、特に語彙・イディオムの習得を目指した協働学習の研究がほとんど見られない。協働学習による語彙学習は個人内学習に比べ大きな効果があることが判明しており日本国外では様々な観点から考察されている (例: Kim, 2008) もの、日本においては未だ活用された例が少ない。日本の英語教育における協働学習を発展させるため、本研究では、協働学習の形の一つである言葉遊び、その中でも puns に着目し、語彙・イディオムの学習を目的とした協働学習を考察する。

## 先行研究

第二言語の協働学習分野において基盤とされてきたものの一つに Swain (1998) による Language Related Episodes (LREs) がある。LREs は言語形式に焦点を当てた対話であり、LREs が多いほど言語習得が促進される。語彙学習において個人内学習と協働学習を比較した研究では、協働学習の方が語彙が記憶がされ、LREs のひとつである「言語使用に関する疑問」が解決されることが多い (Kim, 2008; Shokouhi & Pishkar, 2015) と報告されている。また、近年言葉遊びが協働学習の手段として効果的であることが判明している (Cekaite & Aronsson, 2005; Cook, 2000; Reddington, 2015)。特に、言葉遊びの一つである puns (英語の洒落) は言語形式への注目や LREs の産出を促す (Lucas, 2005) ことが明らかになっており、puns を協働学習に用いることで新出語彙・イディオムの学習を促進するのではないかと考えられる。

puns が言語学習に効果を示すこと自体はすでに指摘されている。puns にも含まれているユーモアが精神的な負担を軽減することが示唆されていること (Bell, 2009; Lems, 2013)、また、puns を理解しようとした学習者は、語彙的側面や構造的側面を含む、言語形式に対する注目が促されている (Lucas, 2005) と確認されていることなどが挙げられる。Puns の記憶に関する研究においては、puns は、puns を含んでいない通常の文章と違い、意味的・音声的に“オチ”となる部分の言葉が確実に“オチ”となるように操作を加えられているため、その部分に対する記憶が強くなる (Summerfelt, Lippman & Hyman, 2010) という主張もある。

## 研究課題

RQ1: 新出語彙を含む puns を読む協働学習において、日本人英語学習者は puns をどのように理解するか。

RQ2: 新出語彙を含む puns を読む協働学習において、日本人英語学習者は新出語彙・イディオムに関してどのような理解を見せるか。

## 研究方法

本研究の調査協力者は、英語教育学を専攻している八名の大学四年生 (TOEIC: 750-985 点) であり、内 7 名が留学経験者であった。募集方法については、調査者の知り合いを経由して募集した。調査の前に、調査者が無作為に二人一組で四つのペアを作成した。一つのペアは特に仲が良い。その他のペアは特段に仲が良いというほどではないが、関係性は良好と見られる。

研究手順について、まずそれぞれのペアに puns である英文を記載したワークシートを配布した。このワークシートでは、以下に示す、新出語彙を含む Lexical-Semantic Puns を 7 題、新出のイディオムを含む Structural-Semantic Puns を 6 題扱った。例文の順序は乱数ソフトを利用して決定した。左側の番号が実際の問題番号、太字で示されている語句がそれぞれの puns に含まれている新出語句である。

## Lexical-Semantic puns

- (1) Did you hear about the glass blower who accidentally inhaled? He got stomach **pane**.
- (3) Atheism is a charitable non-**prophet** organization.
- (4) Next year, I'll spend more **thyme** growing herbs.
- (7) Websites about wild cats usually have **lynx**.

- (9) A harp which sounds too good to be true is probably a **lyre**.  
 (11) A good cherry pie is usually made with **aplomb**.  
 (12) A backward poet writes **inverse**.

#### Structural-Semantic puns

- (2) People who bite their own toenails really **put their foot in their mouth**.  
 (5) After hours of waiting for the bowling alley to open, we finally **got the ball rolling**.  
 (6) After striking the iceberg, the passengers on the Titanic got **a sinking feeling**.  
 (8) My news anchorman colleague just couldn't stop rambling about how a bank robber escaped, so I told him to **cut to the chase**.  
 (10) When William joined the army, he disliked the phrase "**fire at will**".  
 (13) A **hot headed** prince needs hair conditioning quickly.

40 分間、協力者はペアで会話をしながら、それぞれの英文がどのような洒落であるかについて理解することを目指した。その後アンケートと半構造化インタビューを行った。分析方法として、活動中の会話を録音したものを書き起こしてそれらに定性的コーディングを行い、概念的カテゴリーを抽出するという質的データ分析法に基づいて分析した。分析の観点としては、RQ1 に関わるものとして Lems (2014) に基づきつつ、既存の枠組みに当てはまらない概念は新たに生成した。RQ2 に関わるものとして、Kim (2008) に倣い lexical-LREs を音声・語彙・綴りという三観点から分類した。また、その他 RQ に関連し得るものに対しても新たな概念カテゴリーを設定した。

#### 結果及び考察

分析の結果、表 1 に示すような 16 の概念カテゴリーが抽出された。以下は分析の一例である。

概念カテゴリー2：Puns となる言葉を探し予想する

H: 足の指の爪、自分で噛んでる人が、本当に、足、口の中に入れてる。

K: (笑)

H: (笑) これあれじゃない? put がいっぱい意味あるとか。

K: ああ。

H: 普通に成り立つ(...)意味わからんもんね、だって。

概念モデル	概念番号	概念名
Puns の解釈過程	概念 1	Puns における通例の文章の意味理解
	概念 2	Puns となる言葉を探し予想する
	概念 3	Puns における別の意味に対する気付き
	概念 4	Puns における複数の解釈の統合
	概念 5	Puns 読解のための視点の転換
協働学習における 教材としての puns の効果	概念 6	学習者間のやりとりの促進
	概念 7	学習への意欲の高まり
	概念 8	理解・納得の確認
既知の語彙の理解に 関する会話	概念 9	協働学習による視点の拡大
	概念 10	既知語彙の意味に関する LREs
	概念 11	既知語彙の音声に関する LREs
新出の語彙・イディオムの理解に 関する会話	概念 12	既知語彙の綴りに関する LREs
	概念 13	新出語彙の意味に関する LREs
	概念 14	新出語彙の音声に関する LREs
	概念 15	新出のイディオムに対する気付き
	概念 16	新出のイディオムに関する LREs

研究課題 1 に関して、新出語彙・イディオムを含む puns を読解する協働学習において、学習者はまず puns における通例の文章の意味を理解しようとする（概念 1）。その際に出会う新出の語彙について、意味と音声という二つの面を調べる（概念 13・14）。その後は多くの場合 puns となる言葉を探し予想しようとする（概念 2）が、予想していない部分であっても思いがけず別の意味に対する気づき（概念 3）が生まれることもある。また、新出のイディオムは複数以上の解釈が可能ではないかと気づくこともある（概念 15）。通例の意味を理解した上で別の解釈を得られた場合、それら複数の解釈を統合して（概念 4）理解をまとめようとする。別の解釈が思いつかない場合、音読や別の視点から考えるなど試行錯誤して（概念 5）正しい読解を目指す。Puns を読解するためには既知の語句であっても正しい知識を必要とするため、既知の語彙の意味・音声・綴りを調べ直して相手と共有する（概念 10・11・12）ことも多々ある。Puns を読解する活動の中では、自分の考えを相手に共有することなどで学習者間のやりとりが促進され（概念 6）、そのようなやりとりを通じて英語に対する視点が拡大する（概念 9）。

研究課題 2 に関して、学習者は puns に含まれる新出語彙に対して、意味と音声という二点への理解を見せる。学習者は新出語彙の意味を調べ、ただ和訳をするのではなく puns を正しく読解するためにはどの意味が適切かを協働学習中の相手と検討する。また、puns を読解する数が増えるほど、意味を調べると同時に音声にも注目するようになる。正しい発音を確認し、その発音が puns における複数の解釈につながる可能性を疑う（概念 13, 14）。

### まとめと今後の課題

本研究によって、新出語彙・イディオムを含む puns を用いた協働学習において、日本人英語学習者が puns とそこに含まれる新出語彙・イディオムに対してどのような理解を示すかが明らかにされた。日本ではあまり研究がされていなかった協働学習における言語項目の学習という点に関して、本研究は puns を用いることで新出語彙・イディオムの学習に効果がある可能性を提示できたのではないだろうか。

この研究の今後の課題として、第一に、今回の調査では協力者が英語教育を専門とする学生であった。実際の教育現場で扱う前に、様々な習熟度・関係性の学習者を対象に、より幅広く学習者のデータを調査しなければならない。第二に、今回は二人一組のペアという形でのみ調査している。協働学習はペアよりも三人以上のグループの方が効果があるという研究がある。活動に取り組む際に三人以上のグループを作成して調査を行い、二人ペアの場合との比較をすることが必要であろう。第三に、長期的な観察が求められる。本研究の成果を英語学習の分野で活かすためには、活動や遅延テストなどを繰り返して長期的な観察と分析を繰り返し、実際に習得するまでの調査を行うが不可欠である。

### 引用文献

- Bell, N. (2009). Learning about and through humour in the second language classroom. *Language Teaching Research*, 13(241) doi: 10.1177/1362168809104697.
- Cekaite, A., & Aronsson, K. (2005). Language play, a collaborative resource in children's L2 learning. *Applied Linguistics*, 26(2), 169-191.
- Cook, G. (2000). *Language play, language learning*. Oxford: University Press.
- Kim, Y. (2008). The contribution of collaborative and individual tasks to the acquisition of L2 vocabulary. *Modern Language Journal*, 92(1), 114-130. <https://doi.org/10.1111/j.1540-4781>
- Lucas, T. (2005). Language Awareness and Comprehension through Puns among ESL Learners, *Language Awareness*, 14:4, 221-238, DOI: 10.1080/09658410508668838
- Lems, K. (2013). Laughing All the Way: Teaching English Using Puns. *English teaching forum*, 1, 26-33.
- Reddington, E. (2015). Humor and play in language classroom Interaction: *A review of the Literature. Teachers College, Columbia University Working Papers in TESOL & Applied Linguistics*, 15(2), pp.22-38. <https://doi.org/10.7916/D8-SJ1Z7S>
- Swain, M., & Lapkin, S. (1998). Interaction and second language learning: Two adolescent French immersion students working together. *Modern Language Journal*, 82, 320-337.
- Shokouh, A., & Pishkar, K. (2015). Collaborative Method and Vocabulary Retention of Teenage EFL Learners. *Theory and Practice in Language Studies* 5(11): 2395-2401.
- Summerfelt, H., Lippman, L., & Hyman Jr., I. E. (2010). The effect of humour on memory: Constrained by the pun. *J Gen Psychol*. 137(4), 376-394.